

◆学生提案の主な活用事例

No.	提案概要	活用事例	参考
1	<うちわによるオリンピックの暑さ対策> 訪日外国人にとって現地でのコミュニケーション手段、飲食店等との情報入手、夏季の暑さ対策といった課題に対し、ピクトグラムとQRコードを活用したうちわを作成し配布することで、言語障壁と日本の夏の暑さの両方を解消する提案。	暑さ対策と外国人観光客へのおもてなしを目的として、さいたま商工会議所と大学との連携により「おもてなし団扇」を作成し、2017年の世界盆栽大会や2019年のJリーグ、バスケットボール日本代表国際試合等で来場者に配布した。 東京2020大会での配布は、無観客での開催となったため見送られたものの、その他様々な国際的イベントにおける活用が見込まれる。	
2	<文化芸術によるおもてなし> 訪日外国人等への「おもてなしスタイル」を確立し、文化・芸術都市としてのブランドイメージを浸透させるため、地域の伝統文化である盆栽を活用し、盆栽と風鈴をつなげた「吊り盆栽」により、イベント時のおもてなし空間を創出することで、さいたま市を文化芸術都市として発信する提案。	さいたま市の伝統文化である「盆栽」を広く若い世代にもPRするため、大宮盆栽美術館と大学との連携により盆栽に触れたことのない方にも親しみやすい「吊り盆栽」を作るワークショップを開催した。	
3	<彩☆スポ ジュニア栄養サポート制度> ジュニアスポーツに関する栄養面や健康面でのサポートが不足しているという課題に対し、ジュニア期から健全な成長を促し、将来につながるスポーツパフォーマンスを向上させることにより、さいたま市をスポーツのまちとして活性化させる提案。	さいたまスポーツフェスティバルにおいて、市と大学が連携してジュニアスポーツ栄養に関するブースを出展し、栄養士によるスポーツ栄養のワンポイントアドバイスや、ゲーム感覚で学ぶ「コンビニでもできるスポーツ栄養」などを実施した。 アンケート調査では、多くの参加者からイベントの場や学校でスポーツ栄養を学べると良いとの意見を得た。	
4	<まんがを用いた情報発信> 訪日外国人にとつての情報収集は、言語や文化の違いにより難しいという課題に対し、漫画を用いた多言語対応の情報提供やPRサイトの活用などにより、簡単にわかりやすく説明を行うことで、効果的な情報発信を行う提案。	日本の習慣をまんがで分かりやすく紹介するという内容が、「さいたま市観光ガイドブック GOGO! SAITAMACITY」に採用された。 現在、日本語版、英語版、韓国語版、中国語版（簡体字、繁体字）について、冊子が作成されており、Webでの閲覧も可能になっている。	
5	<さいたまにじゅうWEBの提案> 人権を尊重する社会づくりの推進し、多様性との共存を図る社会づくりを目指す中で、ジェンダーバイアスのような無意識な性差別が行われている現状に着目し、性的マイノリティへの理解促進のためのWEBサイトを構築し、人権を尊重する社会づくりの推進を目指す提案。	性的マイノリティの方々によりよく過ごせるツールとして活用できるように、市ホームページの掲載内容を充実させた。 講座や書籍の紹介、埼玉県が実施する「埼玉県アライアランス企業登録制度」などを新たに掲載し、情報発信を強化した。	
6	<がん検診の受診率向上をめざすための提案> 日本は、国民の約2人に1人はがんに罹患すると推計されており、その症状や治療に対する認知度は十分とはいえない現状に着目し、患者の減少、早期発見に重点をおき、「さいたま市健康マイレージ」アプリの機能を活用し、がん対策の知識啓発や検診受診率の向上を目指す提案。	「さいたま市健康マイレージ」アプリの通知機能を使って、市民公開講座「おしえて子宮頸がん検診のコト」の動画の周知を行った。今後もアプリを活用し、がん対策や健康づくりに関する情報発信を進めていく。	
7	<Creative Recycle Center クリエイティブ・リサイクルセンター―つくる喜び、新たな価値の創出―> 企業や工場から出される廃材・リサイクル素材に着目し、それらの素材を造形素材として教育施設やその他の施設、地域の人などに提供すると同時に、技術や情報、創作活動の場を提供する<創造の拠点>クリエイティブ・リサイクルセンターの設立と運用を提案。	見沼環境センターの落成式に合わせ、クリエイティブ・リサイクルセンターの作品を展示し、新たな価値を創出する取組について周知を行った。	
8	<ふおさんぽ> 大学生が高齢者向けにスマホの使い方を説明し写真を撮りながら公共施設内を一緒に散歩することで、スマホの操作の心理的なハードルを下げ、生活をサポートするイベントの開催を提案。 大学生自らが、公共施設内で高齢者とウォーキングするという新たな施設の活用を実践するイベント開催により、デジタルデバイドの改善と健康増進を実現。	提案事業「ふおさんぽ」を、大学生と市の連携事業として開催し、参加者のデジタルデバイド解消及び健康増進へつなげる取組を実施することができた。	
9	<減災について> ・近年の災害が多発している状況を踏まえ、被害を最小にするための準備が必要であることから災害時に持ち出す防災バックの重要性を周知するもの。 ・TikTokやInstagramなどのSNSを活用し、若者や女性向けにライブバックを発信する提案。	「防災リュック」についての記事を市公式Instagramに掲載し、若者をはじめとする市民に防災に関する啓発を実施した。	